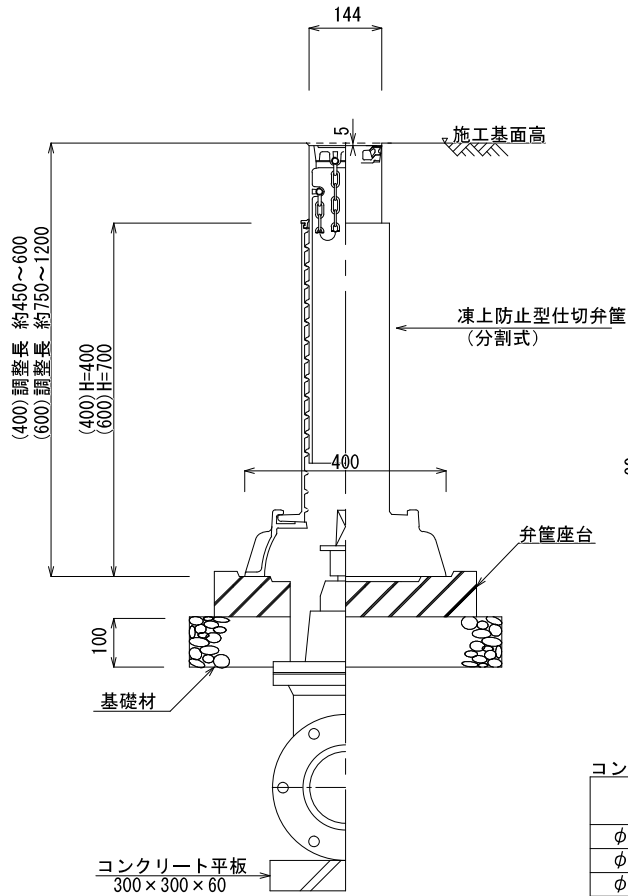


標準図

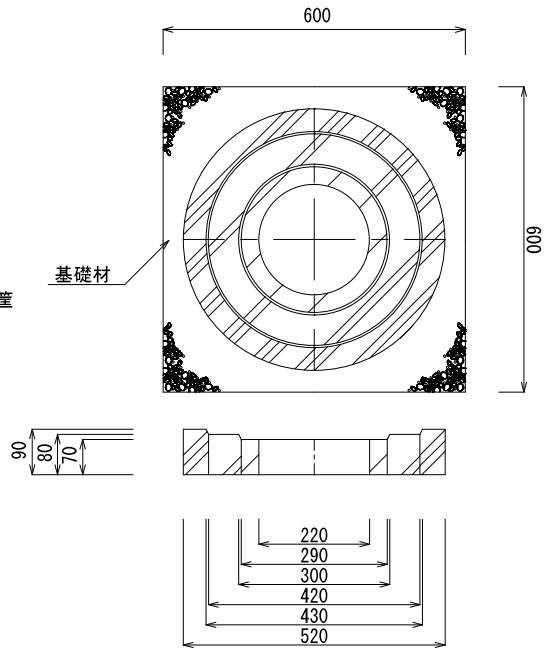
標準図目次

番 号	標 準 図 名 称	番 号	参 考 図 名 称
1	仕切弁設置工（適用口径φ50～300）	1	掘削工（本管口径φ400以下に適用）
2	仕切弁設置工（適用口径φ50～300中間ワッ付）	2	管明示工
3	仕切弁設置工（適用口径φ400～500中間ワッ含む）	3	標示棒設置工（適用口径φ300以下）
4	塩ビ製排泥弁室工（適用排泥管口径φ50）	4	標示棒設置工（適用口径φ350以上）
5	排泥室工（適用排泥管口径φ50）	5	
6	排泥室工（適用排泥管口径φ75～150以下）	6	
7	空気弁室設置工（本管口径φ75～150に適用）	7	
8	空気弁室設置工（本管口径φ200～300に適用）	8	
9	空気弁室設置工（本管口径φ400～600に適用）	9	
10	消火栓設置工（新設）	10	
11	仕切弁室設置工（本管口径φ400～600に適用）	11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	
16		16	

断面図



平面図



弁筐蓋詳細図



仕切弁文字タイプ



消火栓文字タイプ



排泥弁文字タイプ

種別	弁筐標準高 (mm)	調整長 (mm)
400	400	約450~約 600
600	700	約750~約1200

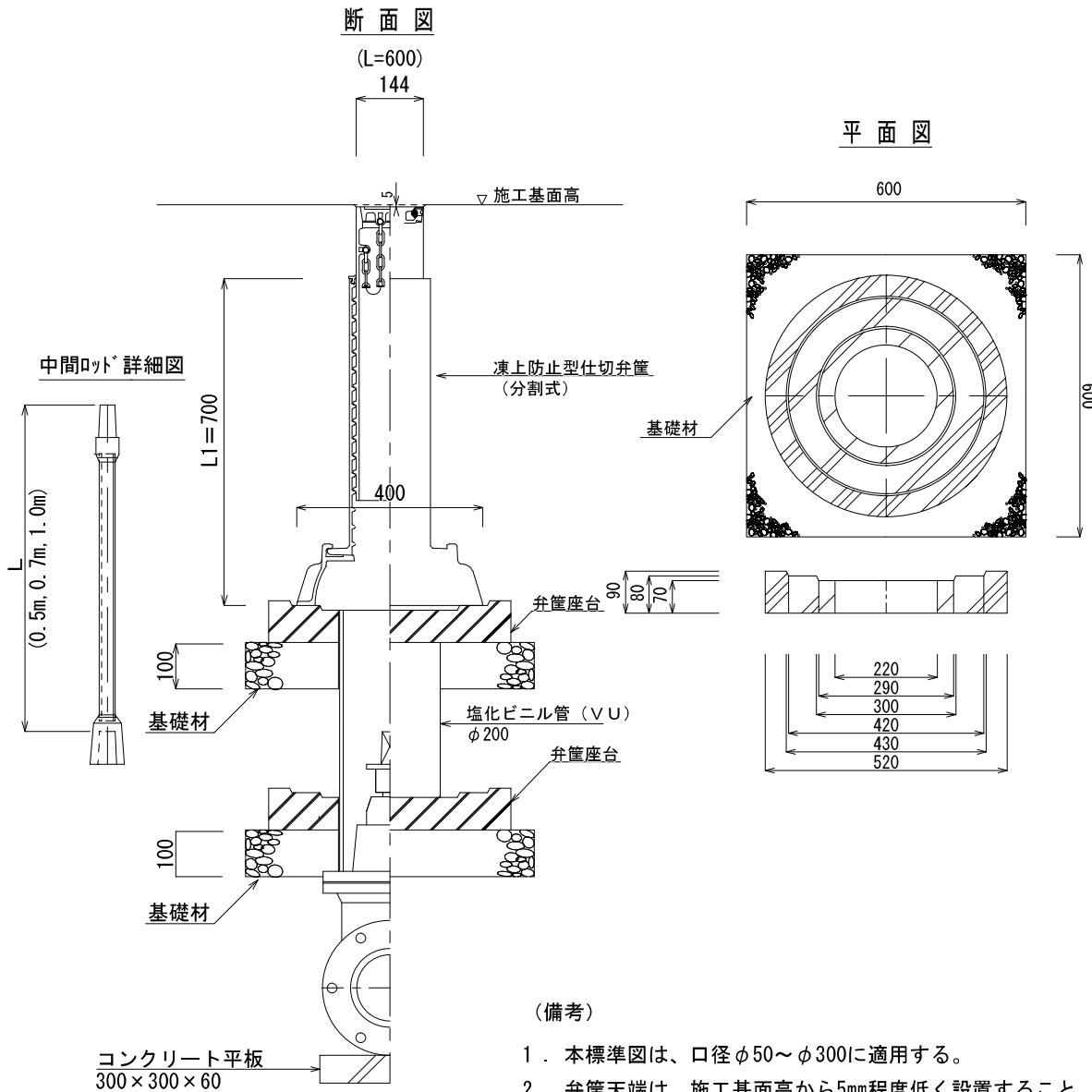
コンクリート平板使用枚数 (参考)

口径	仕切弁種別			
	フランジ型	両受	受挿し	挿口付
φ 50	1	1	1	1
φ 75	1	2	2	1
φ 100	1	2	2	1
φ 150	1	2	2	1
φ 200	1	2	2	1
φ 250	2	2	2	—
φ 300	2	2	2	—
φ 350	2	2	2	—
φ 400	2	2	2	—

(備考)

1. 本標準図は、口径φ50~φ300に適用する。
2. 弁筐天端は、施工基面高から5mm程度低く設置すること。

名称	仕切弁設置工 (標準)
図番 1	本管口径φ50~300に適用
千 歳 市 水 道 局	



弁蓋詳細図



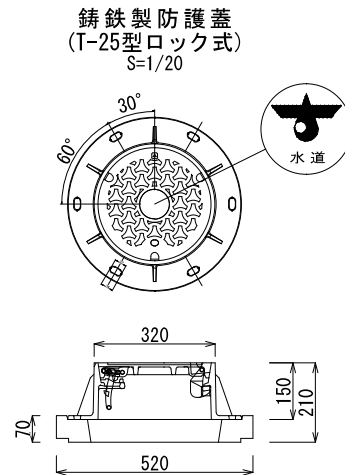
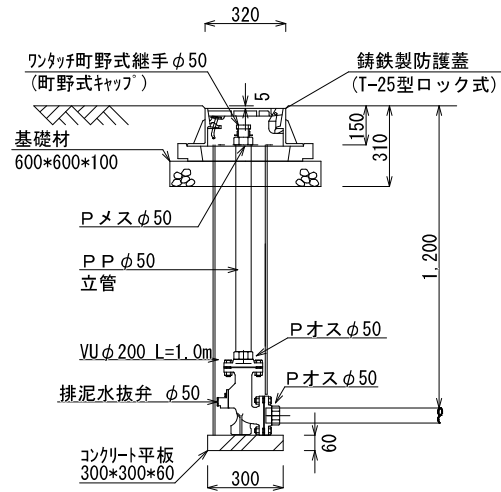
種別	弁蓋標準高 (mm)	調整長 (mm)
400	400	約450～約 600
600	700	約750～約1200

口径	仕切弁種別			
	フランジ型	両受	受挿し	挿口付
$\phi 50$	1	1	1	1
$\phi 75$	1	2	2	1
$\phi 100$	1	2	2	1
$\phi 150$	1	2	2	1
$\phi 200$	1	2	2	1
$\phi 250$	2	2	2	—
$\phi 300$	2	2	2	—
$\phi 350$	2	2	2	—
$\phi 400$	2	2	2	—

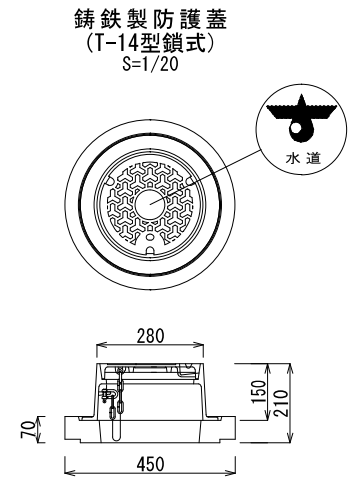
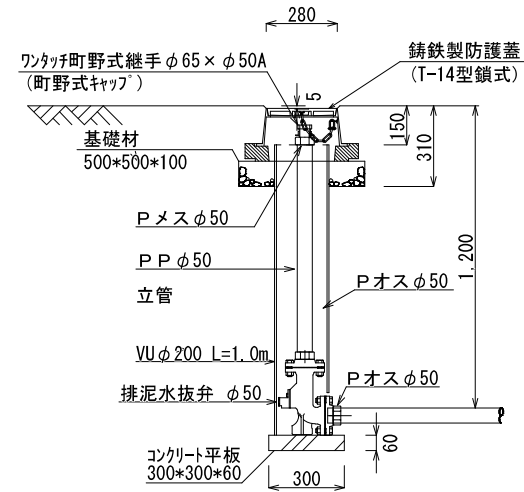
- (備考)
1. 本標準図は、口径 $\phi 50 \sim \phi 300$ に適用する。
 2. 弁蓋天端は、施工基面高から5mm程度低く設置すること。
 3. 以下に該当する場合には、中間ロッドを設置すること。
 - ① 弁蓋天端から仕切弁キャップまでの距離が1.2m以上のとき
 - ② 地下水により仕切弁キャップが水没するときなお、弁蓋天端から中間ロッドの先端までの離れは0.5mから1.2m程度の範囲を標準とする。

名称	仕切弁設置工
図番 2	本管口径 $\phi 50 \sim 300$ に適用 (中間ロッド付)
千 歳 市 水 道 局	

車道部



歩道部



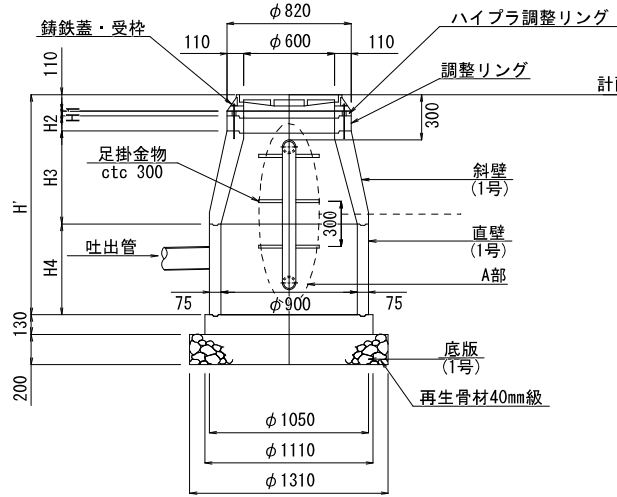
(備考)

1. 本標準図は、排泥管口径φ50の場合に適用する。
2. 設置位置が未舗装の場合は車道用に準ずる。
3. 排泥管は排泥用仕切弁から排泥室までの間に土被り1.20mとすること。
4. 現場条件により土被り1.20mとならない場合は、工事監督員の指示によること。
5. 弁筐天端は、施工基面高から5mm程度低く設置すること。

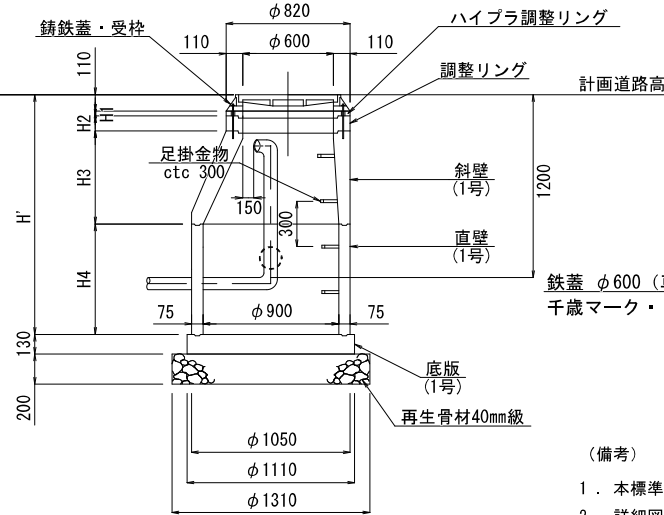
S=1/30

名称	塩ビ製排泥機設置工
図番 4	排泥管口径φ50に適用
千 歳 市 水 道 局	

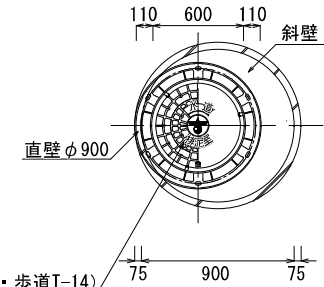
A-A断面図



B-B断面図



頂版

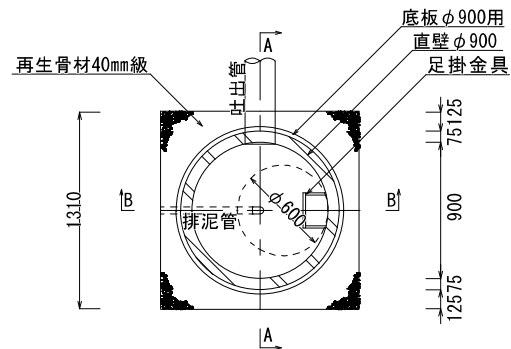


鉄蓋 φ600 (車道T-25・歩道T-14)
千歳マーク・「排泥室」文字入り

(備考)

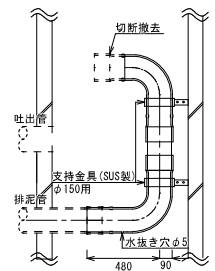
1. 本標準図は、排泥管口径φ75～150に適用する。
2. 詳細図の位置にφ5mm水抜き穴を開けること。
3. 吐出管は接続先に向けて2‰の勾配を標準とする。
4. 排泥管は排泥用仕切弁から排泥室までの間に土被り1.20mとすること。
現場条件により土被り1.20mとならない場合は、監督員の指示によること。
5. 排泥管及び吐出管の向きは、現場条件により異なることから監督員の指示によること。
6. 鉄蓋天端は、施工基面高から5mm程度低く設置すること。

平面図

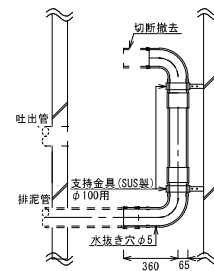


A部詳細図

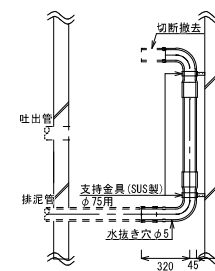
排泥管口径φ150



排泥管口径φ100



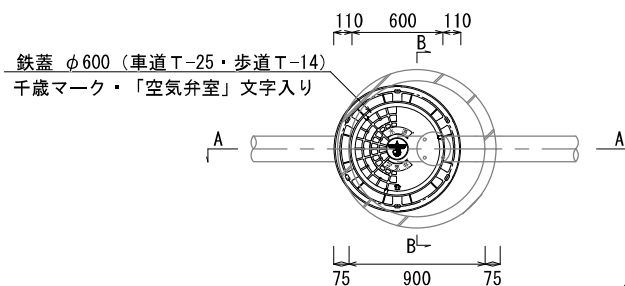
排泥管口径φ75



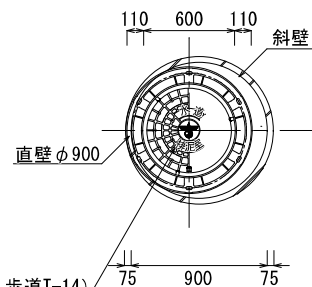
S=1/50

名称	排泥室設置工
図番	排泥管口径φ75～150に適用
5	千歳市水道局

平面図



頂版

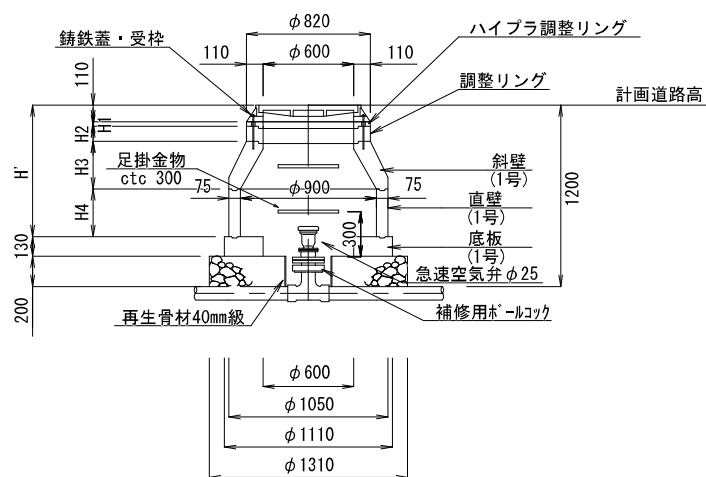


鉄蓋 φ600 (車道T-25・歩道T-14)
千歳マーク・「排泥室」文字入り

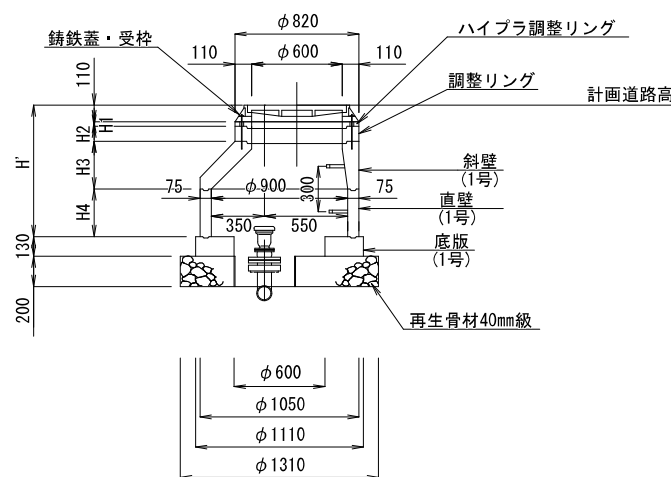
(備考)

1. 本標準図は、本管口径φ75～150に適用する。
2. 鉄蓋天端は、施工基面高から5mm程度低く設置すること。

A-A断面図



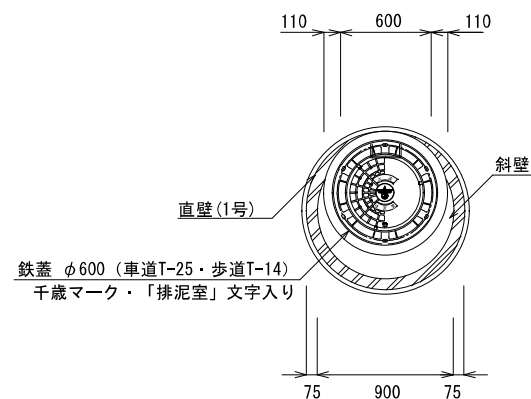
B-B断面図



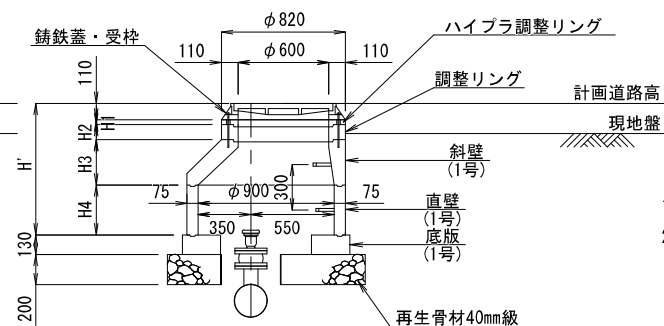
S=1/50

名称	空気弁室設置工
図番 7	本管口径φ75～150に適用
千歳市水道局	

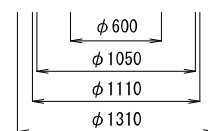
頂 版



B-B 断面图

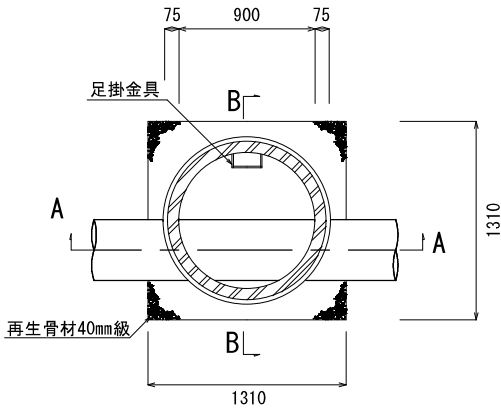


1. 本標準図は、本管口径 $\phi 75 \sim 150$ に適用する。
2. 鉄蓋天端は、施工基面高から5mm程度低く設置すること。

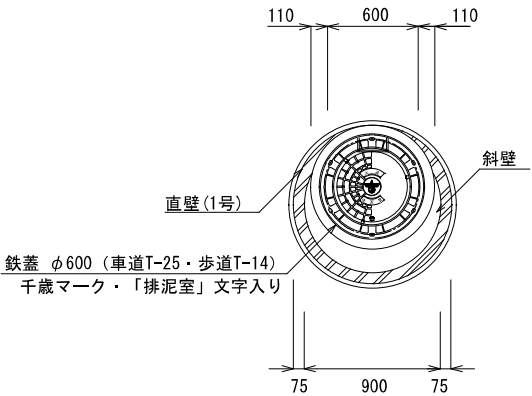


名称	空気弁室設置工
図番	本管口径φ200～300に適用
千 歳 市 水 道 局	

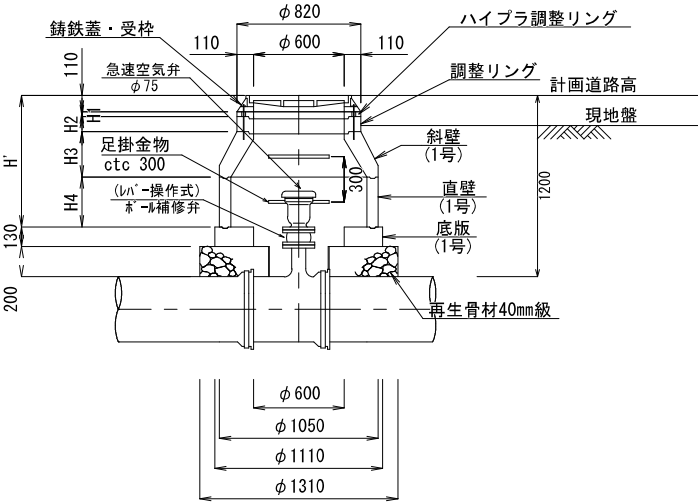
平面図



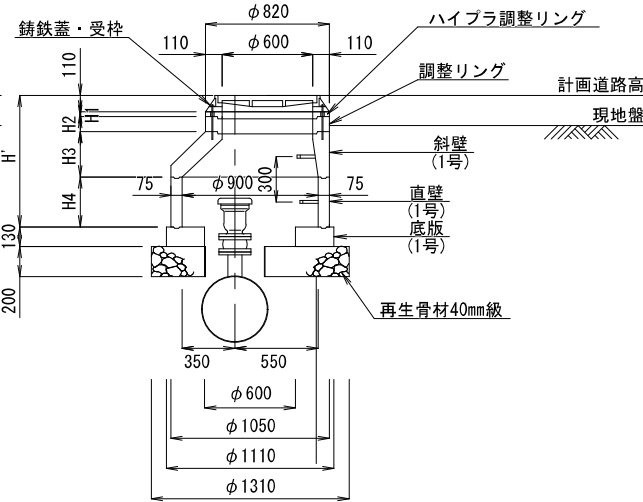
頂版



A-A断面図



B-B断面図



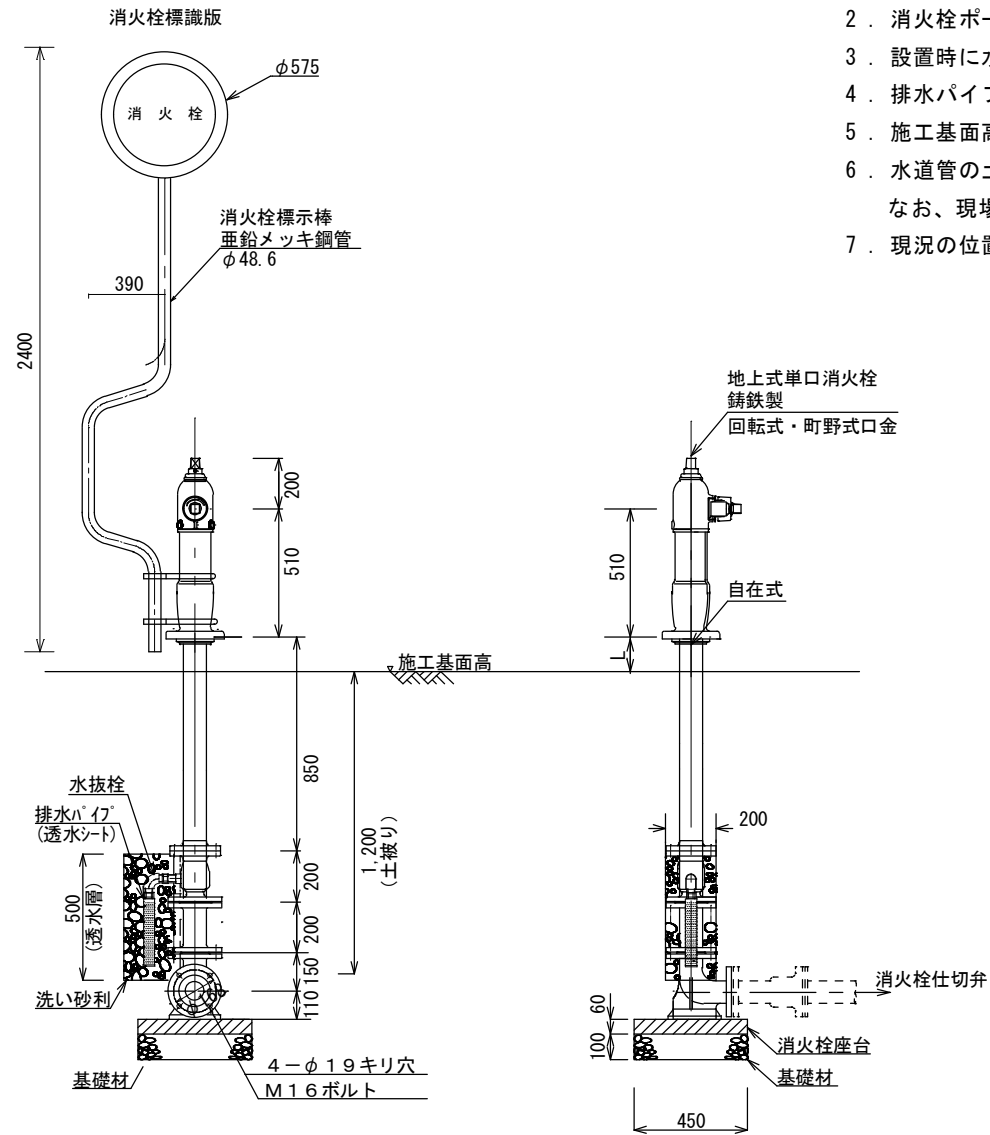
(備考)

1. 本標準図は、本管口径φ400～600に適用する。
2. 鉄蓋天端は、施工基面高から5mm程度低く設置すること。

S=1/50

名称	空気弁室設置工
図番 9	本管口径φ400～600に適用
千歳市水道局	

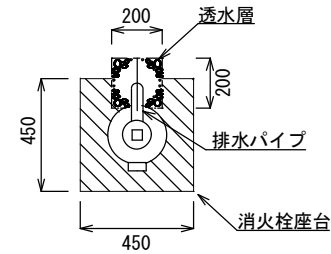
断面図



(備考)

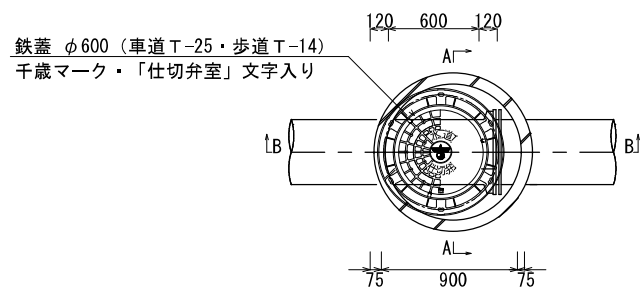
1. 水抜きパイプの外周には透水シートを巻きつけること。
2. 消火栓ポールは、がたつきのないよう取り付けること。
3. 設置時に水抜きバルブの作動確認をすること。
4. 排水パイプ周囲に透水層 (0.50H×0.20W×0.20L) を設けること。
5. 施工基面高～フランジ面までの離隔Lは、維持管理及び機能性の観点から150mm以上確保すること。
6. 水道管の土被りは消火栓用仕切弁において、1.00mを標準とする。
なお、現場条件により土被り1.00mとならない場合は工事監督員の指示によること。
7. 現況の位置に新設管を再設置する場合は、消火栓座台を再利用することを標準とする。

平面図

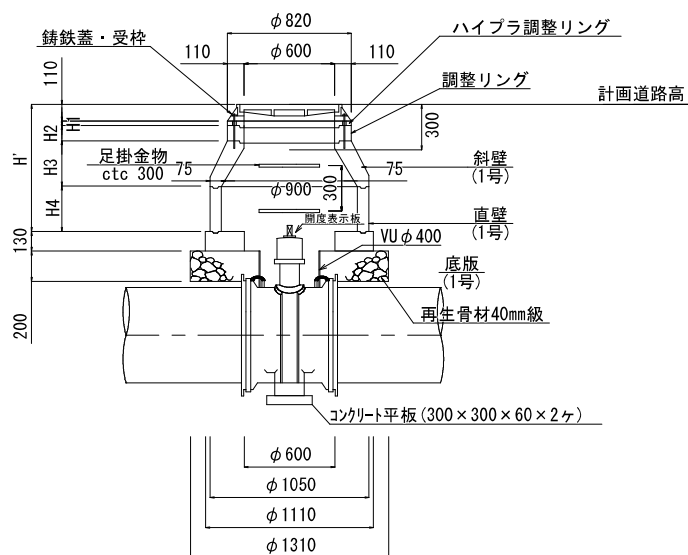


名称	消火栓設置工
図番 10	単口消火栓に適用
千歳市水道局	

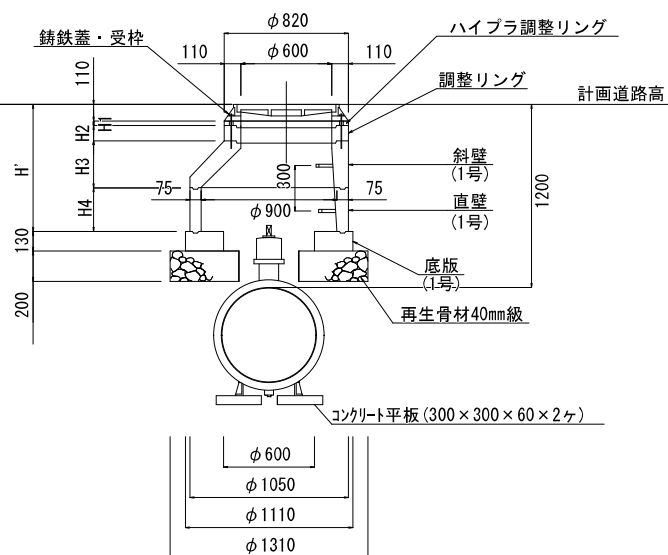
平面图



A-A断面図



B-B断面図

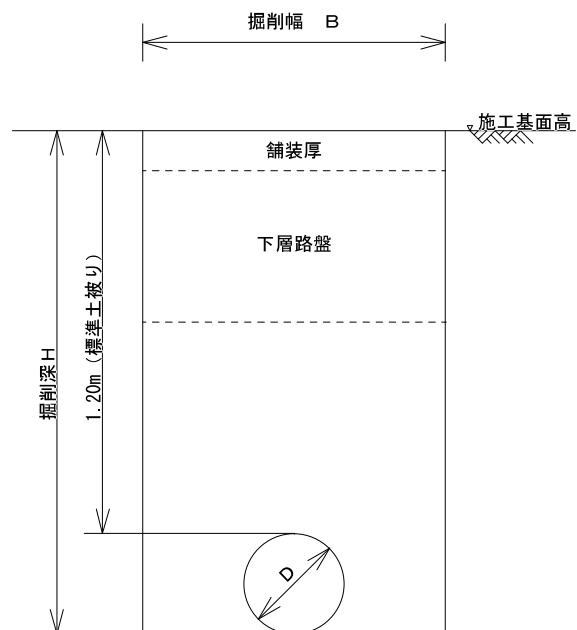


(備考)

1. 本標準図は、本管口径φ400～600のバツタリ弁に適用する。
2. 底板はφ600mmの中空に加工し、開度表示板が視認できるようにすること。
3. マノールの各材料は寸法表を標準とする。
4. 弁芯は底板の芯に合わせること。
5. GLから仕切弁キヤップまでの距離が1.2mを超える場合は、中間ロツトを設置すること。

名称	仕切弁室設置工
図番 11	本管口径φ400～600に適用
千 歳 市 水 道 局	

標準掘削断面



標準掘削寸法

新設管口径 $\phi 50 \sim 250$ (掘削深 1.50m 以下)

新設管口径	B	
	PP・HPP	GX形
$\phi 50$	0.600	—
$\phi 75$	0.600	0.600
$\phi 100$	0.600	0.600
$\phi 150$	0.600	0.600
$\phi 200$	0.600	0.600
$\phi 250$	—	0.650
$\phi 300$	—	0.700

新設管口径 $\phi 400$ 以下 (掘削深 1.50m を超える)

新設管口径	B	
	PP・HPP	GX形
$\phi 50$	0.850	—
$\phi 75$	0.850	—
$\phi 100$	0.850	—
$\phi 150$	0.850	—
$\phi 200$	0.850	0.850
$\phi 250$	—	0.850
$\phi 300$	—	0.850
$\phi 400$	—	1.000

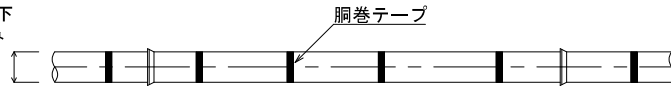
(備考)

1. 布設替の掘削幅は、撤去管径に関係なく、新設管径により定める。
なお、施工条件によりこの表により難しい場合は別途決定する。
その場合の掘削幅は、5cm単位とする。
2. 撤去のみの場合は、新設と同じ掘削幅とする。
3. 本管口径 $\phi 400$ 以上における標準土被りは 1.20m とする。

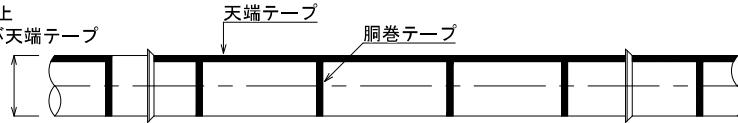
参考図 名称	掘削工
参考図番号 1	布設替に適用
千 歳 市 水 道 局	

管 明 示 テ ー プ

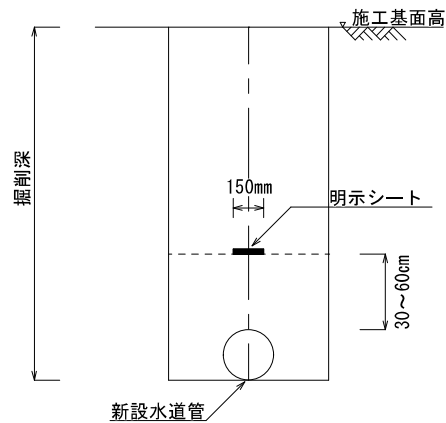
本管口径φ350以下
胴巻きテープのみ



本管口径φ400以上
胴巻きテープ及び天端テープ



管 明 示 シ ー ト



千歳 立会依頼 24-4132
この下機械掘削禁止

管 明 示 テ ー プ 使 用 量

単位：m

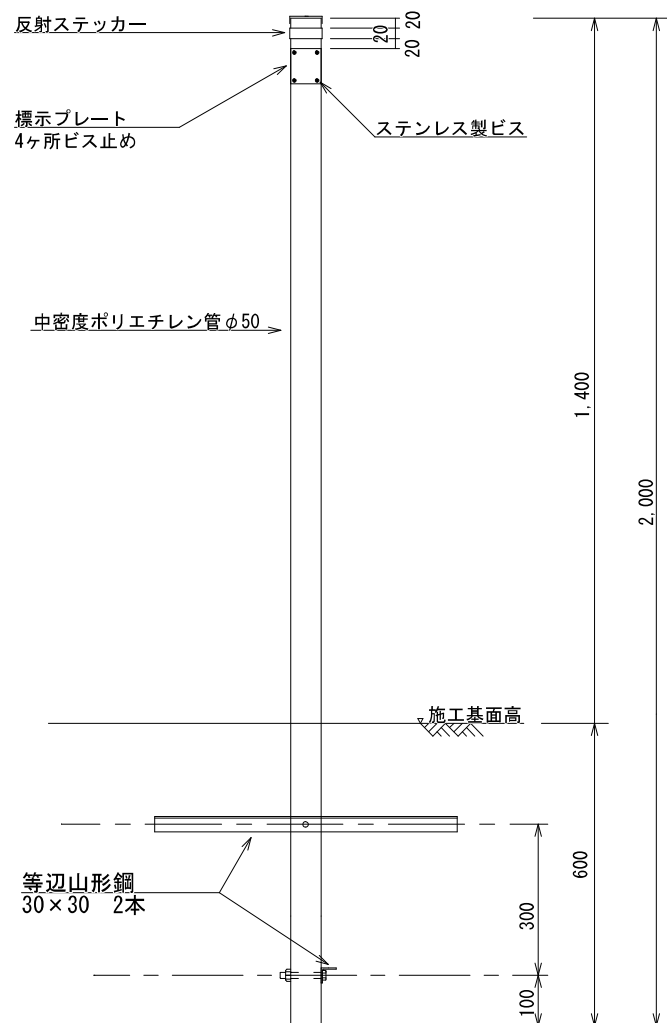
本管口径	管1本 延長	外周	1.5周 巻長	管1本 使用延長	管100m 使用延長
φ 50	5.0	0.20	0.30	1.20	24.0
φ 75	5.0	0.28	0.42	1.68	33.6
φ 100	5.0	0.41	0.62	2.48	49.6
φ 150	5.0	0.57	0.86	3.44	68.8
φ 200	5.0	0.69	1.04	4.16	83.2
φ 250	5.0	0.85	1.28	5.12	102.4
φ 300	6.0	1.01	1.52	6.08	101.3
φ 350	6.0	1.17	1.76	7.04	117.3
φ 400	6.0	1.35	2.03	14.12	235.3
φ 450	6.0	1.50	2.25	15.00	250.0
φ 500	6.0	1.67	2.51	16.04	267.3
φ 600	6.0	1.98	2.97	17.88	298.0

(備考)

- テープは、本管口径φ 50 以上の水道管に直接貼り付ける。
- 管明示テープは、本管口径φ 350mm以下は胴巻きのみとし、本管口径φ 400mm以上については胴巻きテープ及び天端テープを貼り付けること。
- 天端テープを貼ってから胴巻きテープを貼る。胴巻きテープは管周を1回半巻くこと。その重なりは、管上半円で行うこと。
- 胴巻きテープは、接合作業の観点から管端部から0.15～0.20m離すこと
- 胴巻きテープの間隔は、管長4mの場合は3箇所/本。管長5～6mの場合は4箇所/本とする。
- 明示シートは、原則として全線に設置すること。
- 管天から30cm以内に路盤を施工する場合には、路盤の直下に設置すること。

参 考 図 名 称	管明示工
参考図番号 2	新設管に適用
千 歳 市 水 道 局	

断面図



標示板詳細図

水 道 管
仕 切 弁 位 置

口 径	m/m
前後方	m
深 さ	m

千 歳 市 水 道 局

水 道 管
空 気 弁 位 置

口 径	m/m
前後方	m
深 さ	m

千 歳 市 水 道 局

水 道 管
埋 設 位 置

口 径	m/m
前後方	m
深 さ	m

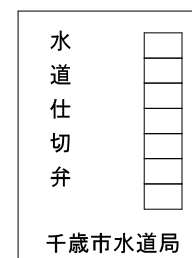
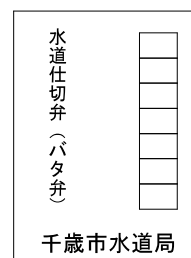
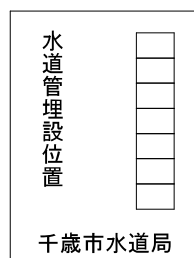
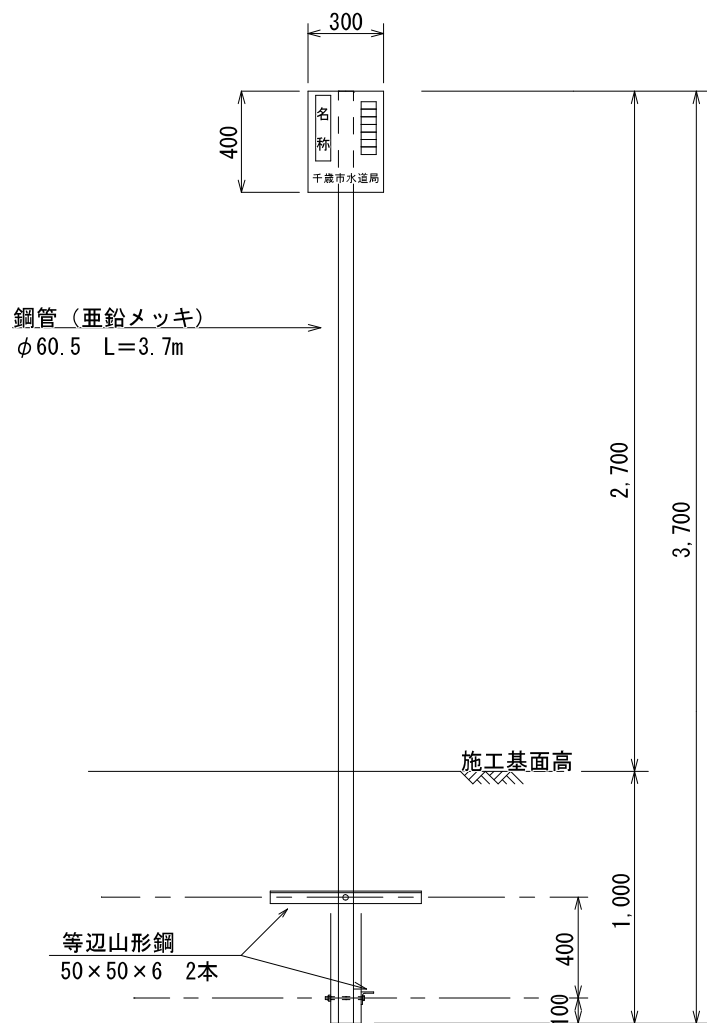
千 歳 市 水 道 局

(備考)

1. 本標準図は、本管口径φ300以下に適用する。
2. 標示プレートは必ず4ヶ所ビス止めすること。
3. 等辺山形鋼は、2本が直角となるよう取り付けること。
4. 標示プレートに使用するビスは、ステンレス製「タッピンねじ十字穴付きトラス」とすること。
5. 標示棒の設置場所は、以下の場所とする。
 - ①工業団地内
 - ②農村地区
 - ③工事監督員の指示した場所
6. 棒の材質は配水用ポリエチレン管φ50 (L=2m) とし、頭部にはキャップを取り付けること。

S=1/15

参 考 図 名 称	標示棒設置工
参考図番号 3	本管口径φ300以下に適用
千 歳 市 水 道 局	



(備考)

1. 本管口径φ350以上に適用する。
2. 主板は、アルミニウム板を使用し、配色は白地に紺文字で製作する。
3. 主板は片面製作とし、塗装は白地は焼付塗装紺文字はシルク印刷とする。
3. ポールは亜鉛メッキ鋼管 (φ60.5、L=3.7m) を使用する。

S=1/30

参考図 名称	標示棒設置工
参考図番号 4	本管口径φ300以下に適用
千 歳 市 水 道 局	